

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付 : 2015年1月15日

事業ID : 2017405700

事業名 : 教員の多忙化解消プロジェクト

団体名 : 日本教員多忙化対策委員会

代表者名 : 浅谷 治希 印

TEL : 080-7838-0038

事業完了日 : 2017年12月31日

事業費総額	4,972,794円	(事業の実施にあたり生じた費用の総額(支払台帳の合計金額))
自己負担額	12,794円	(事業費総額が助成金額より多い場合の差額)
助成金額	4,960,000円	(事業実施のために使った助成金の総額)

事業内容 :

1.事業目標の達成状況 :

【申請時の目標】

資質・能力があり、かつ定時で帰宅している教員がどのようなワークフローやオペレーションで働いているのかをインタビュー。小中高と初任・中堅・管理職ごとに業務・タスクごとに分解し、調査・分析・マニュアル化へと落とし込む。

日時、場所、参加者、内容

【目標の達成状況】

インタビュー実施と業務・タスクごとに分解し、調査・分析をすることができましたが、対象は高校のみに絞り、マニュアルへの落とし込みには至りませんでした。

2.事業実施によって得られた成果 :

- SENSEI NOTE/PORTALの会員向けに多忙化の現状及び業務効率化のノウハウについて調査

日時 : 2017年9月8日、9月13日に配信

場所 : オンライン

担当者 : 浅谷、高橋、石井

内容 : 業務効率化のノウハウを集めるための調査メールを送付し、117名から有効回答あり

- 有効回答があった教員5名へインタビュー

期間 : 2017年9月25日～2017年10月6日

場所 : オンラインインタビュー

担当者 : 石井、真田

内容 : 期間に電話インタビューを実施。

・静岡県立掛川西高等学校への調査

期間：8/28～10/23

場所：静岡県立掛川西高等学校

担当者：浅谷、石井、高橋、栗山、川西

内容：SENSEI NOTE/PORTAL会員に向けた調査を元に仮説を立て、掛川西高等学校の吉川先生の協力を得て調査を実施。通常はアンケートのみで終わる調査が多い中、長期に渡って学校内に入つて調査をできたため、多忙化の現状はもちろん、調査進行・方法についても知見を得ることができた

1回目：8月28日

校長、教頭、教務課長、教諭6名へインタビュー。様々な役職へインタビューを行い、多忙の全体像を探る。

(インタビュー内容については、事業成果物を参照)

2回目：9月27日

教諭1名、副校長へインタビュー。インタビューを踏まえて、今後の調査の方針を決定する。

(インタビュー内容については、事業成果物を参照)

3回目：10月2日

教諭6名、副校長へインタビュー。

(インタビュー内容については、事業成果物を参照)

4回目：10月23日

教諭2名へインタビュー。

(インタビュー内容については、事業成果物を参照)

・世耕経済産業省大臣との懇談会に識者として参加

日時：2017年9月5日

場所：経済産業省

担当者：浅谷

内容：経済産業省にて、識者6名の内の1名として世耕経済産業省大臣との懇談会に参加。

教員の多忙問題と解決への道筋について識者として大臣に説明をさせていただく。

・文部科学省との意見交換会を実施。

日時：2017年9月21日

場所：文部科学省

内容：教員多忙化の担当者とも意見を交わす。

参加者：浅谷・高橋に加えて、教員多忙化の担当を含む15名弱の文科省官僚が参加。

・教育経済の研究者と共に教員多忙化が世の中にもたらすインパクトをデータで整理

期間：9月～11月

場所：オンライン

畠山氏（元国連職員、現ミシガン大学在籍）と9月～11月にかけてオンラインで先行研究

を整理する。

- ①世帯年収と子供の学力の関係性
- ②学力と生涯賃金の関係性
- ③日本の教員の特徴の海外比較
- ④教員の資質と生徒の生涯賃金の関係性
- ⑤教員の学ぶ意欲について
- ⑥ランダム比較化試験（RCT）の調査設計

・クラウドファンディング（Readyfor）にて当初の目標を247%達成

期間：2017年9月19日～2017年11月20日

場所：オンライン

参加者：浅谷、高橋、栗山、真田、石井、清原

内容：目標金額1,500,000円に対して、支援総額3,707,000円（264名）を達成。

・ブースセッション

日時：2017年11月18日

場所：東京国際フォーラム

担当者：高橋、浅谷、石井、野中、石井、川西、栗山、清原、真田

参加者及び内容：ブースには教育界の第一人者18名が登壇し、多くの人がブースに参加。

3.成功したこととその要因

- ・SENSEI NOTE/PORTALのプラットフォームを持っていたため、スムーズな調査対象校リクルーティング及び調査が可能であった
- ・研究者がいたことで、通じて世界中の先行研究を参考にしながら多忙化という課題を見つめることができた

4.失敗したこととその要因

- ・マニュアルだけでは解決しない課題も多く、より虎の巻以外の施策が必要であることがわかった
- ・調査対象校を静岡に設定していたのもあり物理的に遠かった。次回以降は、物理的に近い学校で実施したい。

事業成果物：

- No.X SENSEI NOTE/SENSEI PORTAL会員へのアンケート：1部（8枚）
- No.2 訪問当日の動き方まとめ（10/2）：1部（3枚）
- No.3 多忙化解消に向けた課題の整理（10/11）：1部（1枚）
- No.4 調査へのご協力依頼（10/23）：1部（2枚）
- No.5 訪問当日の動き方まとめ（10/23）：1部（2枚）
- No.6 調査へのご協力依頼（10/23）：1部（2枚）
- No.7 SENSEI NOTE内の多忙化解消ノウハウ：1部（1枚）
- No.8 平成29年度年間行事予定(案)：1部（2枚）
- No.9 業務工程表：1部（1枚）
- No.10 年間行事予定表（1学期）：1部（1枚）
- No.11 年間行事予定表（2学期）：1部（1枚）

- No.12 年間行事予定表（3学期）：1部（1枚）
- No.13 プレゼン資料：1部（15枚）
- No.14 事業計画書：1部（20枚）
- No.15 プレゼン用映像（CD-R）：2点
- No.16 インタビュー書き起し：19部一式
- No.17 法被のデザイン
- No.18 チラシのデザイン
- No.19 リアルバナーのデザイン①
- No.20 リアルバナーのデザイン②
- No.21 ロゴのデザイン

